

令和3年11月定例会

教育委員会定例会会議録

書記 鈴木 亮平

書記 蜂谷 愛

塩竈市教育委員会定例会会議録

◆日 時 令和3年11月24日(水) 午後2時30分～午後3時27分

◆場 所 塩竈市民交流センター 視聴覚室

◆出席委員

教 育 長	吉 木 修	教育長職務代理者	高 橋 輝 兆
委 員	松 田 攝 子	委 員	佐 藤 香
委 員	菅 井 信 吉		

◆事務局

教 育 部 長	鈴 木 康 則	教育部理事兼 市民交流センター館長	佐 藤 達 也
教育総務課長	佐 藤 聡 志	学校教育課長	白 鳥 武
生涯学習課長	鈴 木 和 賀 子	教 育 総 務 課 課長補佐兼総務係長	鈴 木 亮 平
小中一貫教育 推進専門官	弓 田 宣 弘	教育総務課主査	蜂 谷 愛

◆定例会次第

- 1 開会
- 2 前回会議録の承認
- 3 会議録署名委員の指名
- 4 教育長報告
 - ① 県教委・地教委懇話会
 - ② 本市の教育活動の状況
 - ③ 秋の叙勲及び表彰等
- 5 教育部長報告
 - ① 第6次塩竈市長期総合計画 基本構想(案)について
- 6 その他報告
 - ① 塩竈市立第一小学校長寿命化改良事業について
 - ② 感染症対策等の学校教育活動継続支援事業による物品等の整備について
 - ③ 学校給食調理業務の一部委託の拡大について
 - ④ 令和3年度全国学力・学習状況調査について
- 7 閉会

1 開会 午後2時30分

2 前回会議録の承認

松田委員から報告、承認

3 会議録署名委員の指名

高橋委員と佐藤委員を指名

4 教育長報告

吉木教育長から、以下のことについて報告

- ① 県教委・地教委懇話会
- ② 本市の教育活動の状況
- ③ 秋の叙勲及び表彰等

〔主な質疑〕

特になし。

5 教育部長報告

鈴木教育部長から、以下のことについて報告

- ① 第6次塩竈市長期総合計画 基本構想（案）について

〔主な質疑〕

松田委員 この第6次塩竈市長期総合計画は総合教育会議の中で議論するようなものではなく、決定事項というか、ある程度こういう形で進めますよというような基本構想案ととらえてよろしいか。

教育部長 この計画が塩竈市の一番大きな計画となる。これに基づき、現在議論いただいている教育振興基本計画がぶら下がっている計画で、全体的な教育委員会の計画となる。さらにその下に現在作成している生涯学習プランというものがある。長期総合計画があり、教育振興基本計画があり生涯学習プランがあるというような大きな流れがあり、それをこの10年間目標として進めていこうというようなものである。

高橋委員 これは10年の計画ということだが、例えばこれまでの資料で人口減少に伴う学校再編等について長期的に視野に入れて考えていかなければいけないという話があったと思うが、この計画に記載していないということは議論をしないということか。議

論を続けながらもこういう事を並行して行っていくということか。

教育部長 あくまでもこの計画は市全体の大きな考え方である。人口減少していくのは間違いなく、子どもたちの数が減っている中で、これを受け、教育委員会の内部で適正な学級数等について精査していた。それを踏まえ、学区割等を含め、学校再編について、来年度からは外部の委員を含め議論しながら、検討していくという流れだった。

教育長 市の人口5万人を維持していくというのが大きな目標であり、教育だけでなく様々な政策を実施し維持していく。ただし、現実的には、高橋委員がおっしゃったように、児童生徒数の減少に伴って学校再編も考えていかなければならないため、並行して実施していく部分はあると考える。この計画は10年だが、前期計画として5年あるので、5年ごとに見直ししていくというものである。

6 その他報告

佐藤教育総務課長から、以下のことについて報告

- ① 塩竈市立第一小学校長寿命化改良事業について
- ② 感染症対策等の学校教育活動継続支援事業による物品等の整備について
- ③ 学校給食調理業務の一部委託の拡大について

弓田専門官から、以下のことについて報告

- ④ 令和3年度全国学力・学習状況調査について

〔主な質疑〕

松田委員 感染症対策等の物品に関連して、以前各学校の児童生徒に配布した飛沫防止パネルについてお伺いしたい。各学校で子どもたちが活用していると思うが、効果はどうか、また、課題はないのかお聞きしたい。

教育総務課長 効果としては、グループワークをするときに目の前に座る子ども達の安心・安全に役立っている。また、保護者の方からの評価も高く、飛沫防止パネルを設置していただくと安心だという声もいただいている。難しくなってきたところは、新型コロナウイルス感染症が終息してきたので、飛沫防止ガードをどこま

でつけていくか、各学校検討しているところである。8月、9月の感染症拡大時期に合わせて設置できたので、感染症拡大防止に役立ったのではないかと考える。

松田委員 学校給食調理業務の委託についてお伺いしたい。先ほど地場産品ということで話があったが、その活用率について、委託業者になったことで、変化があったのか。あるいは地場産品をうまく給食に取り入れるために何か対策しているのかお伺いしたい。

教育総務課長 給食調理業務が委託となっても、栄養士は変わらないため、メニューに変更がないのと、食材の発注は栄養士が行い、引き続き地元からの購入を行っているため、地場産品の活用率は現状変わらない。今年度は産業の支援事業として、新型コロナウイルス感染症で打撃を受けた高級なお土産のかまぼこを7月以降、ほぼ毎月各学校の給食で提供し、11月には200kgいただき、大々的に贈呈式を行っている。昨年度は地場産品ではないが、地元事業者を支援する取組として、黒毛和牛を地元の食肉業者から購入し、地元の経済活動をしている方を支援している。このように、かまぼこや海保カレー等色々な取組を通して、塩竈の魅力を伝える食育は行っていきたい。

教育長 現在栄養士は、県費負担教職員が4名、それ以外は市費の職員として任用している。その栄養士が、献立を作成し、食材の発注も行っている。その後の、調理作業だけを委託しているという形である。献立を作るところまで委託しているわけではないので、それをご承知おきいただきたい。

菅井委員 給食調理業務を委託した中で、危険負担とういか、例えば食中毒が発生した場合やアレルギー対応等の責任をどのように線引きしているのか。また、委託に抵抗感を抱く保護者もいると思うが、周知をどのように行うのか。

教育総務課長 責任の有無については、仕様書の中に記載している。例えば調理中に異物が混入した場合は、当然業者責任の中で対応いただく。また、アレルギー対応もしっかりしていただく。ただし、アレルギー食の配食の段階で手違い等があった際は市で対応する。そういった形で明確に責任を分けている。また、給食の委

託会社は、全国で給食提供の役割を担っており、民間の業者も衛生管理を含めたかなりのノウハウを持っている。学期が変わる時に委託業者と我々で情報交換を行うが、逆に教えていただくことも多く、仕様書上決めた水準以上の衛生管理を行っていただいている場合もある。また、委託に対する保護者の抵抗感について、給食の委託は段階的に行っており、これまで保護者から不満の声は上がっていないが、なお丁寧に対応していく。周知については、まず役員の方とお話しし、それを踏まえ周知する流れになると考えている。2月、または3月上旬に周知させていただく。

佐藤委員 家庭との連携として、「テレビゲーム」時間を減少とあり、ゲームの時間が多いという現状である。各学校ではノーメディアデイ等の取組を行っていたと思うが、現在の取組や状況をお伺いしたい。

学校教育課長 各校ではノーメディアデイを火曜日に行う等、具体的に取り組んでいる。さらに、アルカス☆塩釜☆では児童会生徒会が中心となって、私たちはどのような使い方をすればいいのだろう、という様に、子どもたちが約束を作り守っていこうという自治活動を市が応援している。また啓発として、具体的な数字を学校から家庭に情報提供していく。さらには今後、可能であれば学識経験者、専門家を招いた研修会を行いたいと考えている。

松田委員 学力調査とQ-U調査の関連について、例えば学級生活満足群にいる子どもは、学力的に高いのか。あるいは、不満足群の子どもの学力がどうなっているのか。そこに関係があるのか。そのような調査はできるのかお伺いしたい。

弓田専門官 Q-U調査（学級満足度調査）は学級で何%かという調査なので、個人というよりは、学級集団がどうなのかという調査である。それと学力の関係はどうかというと、因果関係ではないが相関はある。やはり、学級満足度が高いところは成績が良い。市としては学級としてどうなのかをとらえているので、その先の一人一人のデータは押さえていない。

松田委員 全体での傾向は分かるが、例えば一人一人に応じて対応していくのであれば、各学校で下位群と上位群の中から何人かピックアップ

アップしてどのように変移したのか見取っていくと、一つの調査の結果として表れ、対応策が見えてくると考えた。

弓田専門官 標準学力調査では、全体のテストの正答率が4割に満たない子どもに光を当て、まずその子たちが上に上がるように取り組んでいる。そして、1回目と2回目の調査結果を比較するということは行っている。Q-Uは学力だけでなく、それ以外の部分、友達との人間関係等の様々な要因が関係してくる。そこで、Q-U調査では、不満足群の中のさらに厳しい子たち、要支援群といいますが、その子たちを少なくするように、特にどの子を重点的にというのを見取ったうえで、友達関係や勉強など、各学校で対応を行っている。

菅井委員 1日あたりのテレビゲームの時間が4時間以上という割合が、全国に比べ塩竈市は倍近いが、率直な疑問としてなぜこんなに差が出ているのか。

弓田専門官 これはあくまでも私見であるが、まずこのデータが小学1年生から中学3年生の全部のデータではなく、小学6年生と中学3年生のみのデータであるということが前提である。そうすると、先ほど塾や家庭教師に教わっているかという項目で全国では2分の1、塩竈市では4分の1強であるということも関係あるのではないか。つまり、帰宅してから全国的には半分の人たちは塾等に通っており、その時間は、当然ゲームはできない。塩竈市の子ども達は塾等に通っている子が少ない。ではその子たちは何をしているかという、1日あたり家庭学習を全くしないという子どもも全国に比べ2倍いるので、その時間にテレビゲームをしているのではないかと思う。それから、帰宅した際に誰も大人がおらず、保護者が帰ってくる18時や19時までの時間は誰も見ていないので、その時間は何をするかというやはりテレビゲームをしている。そのような様々な要因があり、それが結果に出たのではないかと思う。そこで、これからの取組として考えているのは、この結果はあくまでも小学6年生のデータだったため、1年生からすべての学年のデータを取りながら、この結果が極端に高いデータだったのか、塩竈全体としてそのような傾向があるのか精査していきたい。

教育長 この資料は全国との比較で示しているが、宮城県も実はテレビゲームをしている割合が高い。だから割合が高くてもいいという訳ではないため、保護者への啓発として、保護者会やPTA 総会に教育委員会が出向き、今行ったような現状を話すような場を来年度は考えていきたい。また、現在一小や杉小で放課後子供教室等を実施しているが、来年度はその取組を全部の学校に広げていく。放課後子供教室で様々な学習や習い事等を行い、教室で過ごす時間が増えていけば、その分一人で家にいる時間が少なくなるため、自然とゲームをする時間も若干は減っていくのではないかと考えている。

7 閉会 午後 3 時 27 分

《会議録署名委員》

2 番委員

(高橋委員)

3 番委員

(佐藤委員)